

# 議論用メモ

テーマ: アウトバウンドとデジタルイゼーション

2021年3月29日  
加藤康之

# アウトバウンドとデジタルイゼーション

(1)「アジア証券運用ビジネス」のハブを目指す。

(2)「アジア金融情報サービスビジネス」のハブを目指す。

(1)「アジア証券運用ビジネス」のハブを目指す。  
(欧米の機関投資家を顧客として狙う)

- アジア商品の整備
  - アジア企業の東証上場を推進し、流動性も供与する。
- アジア証券運用で実績のある資産運用会社、アジアインパクトファンド、アジア証券フィンテックを誘致
- 東京サステナブルファイナンス市場のインフラ整備
  - サステナブル債券発行のインフラ整備
  - アジア地域におけるサステナブル投資基準の策定  
(Euro Taxonomyのアジア版)
  - ESG金融機関の認証
  - その他

(2)「アジア情報サービスビジネス」のハブを目指す。  
(世界の機関投資家、分析者を顧客として狙う)

- アジア証券のリターンデータなど基本的データベースセンターの整備(60年前に設立された米国シカゴ大学CRSP: Center for Researches in Securities Priceの成功事例を参考に)
- アジア地域に特化したサステナブルファイナンス系データベース、社会的インパクト評価ビジネスの育成
- アジア地域の主要大学連携によるアジアサステナブル研究の推進(アジアの研究機関への研究助成制度の設立、研究成果の表彰など)→結果的にデータベースの整備も進む